

秋田大学医短紀要 5 : 51-56, 1997.

看護学生の看護に対するイメージの変容について(2)
— 縦断的方法による検討 —

石井 範子* 平元 泉* 志賀 令明** 堀井 雅美***

The Change of Students' Image on Nursing (2):
Study with the Longitudinal Method

Noriko ISHII* Izumi HIRAMOTO* Noriaki SHIGA** Masami HORII***

I. はじめに

学生の将来の職業選択には、職業やその職業に従事する人に対するイメージが大きく作用するものと考えられ、様々な職業についてのイメージ調査が行われている¹⁾²⁾。本学は医療技術者養成を目的とする短期大学であり、看護学科に入学した学生の多くが看護職者をめざすのは当然であるが、学生の看護および看護職者に対するイメージは入学動機によって異なることや、入学後の看護教育により変容することが予測される。そこで、入学時から卒業時までの3年間、縦断的方法により本学看護学生の看護に対するイメージ測定を実施した。今回、3学年の学年別比較および学年毎の入学動機別のイメージの比較を行い検討を加えた。尚、“看護に対するイメージ”とは、ここでは、看護という職業に対するイメージ、および看護職者に対するイメージの双方を意味する語として用いる

こととする。

II. 方 法

1. 対象

秋田大学医療技術短期大学部看護学科1993年度入学の1年次生76名、2年次生75名、3年次生74名である。

2. 調査用紙の構成と調査方法

イメージ測定は、20の形容詞対からなる意味尺度についてSD法により7段階評定法で行った³⁾(図1)。調査用紙には学籍番号、入学動機(1年次のみ)の記入欄も設けた。調査は、1年次では初めての臨床実習である基礎看護学見学実習の前の7月上旬、2年次では履修すべき全ての講義が修了した2月、3年次では臨床実習が修了した11月下旬に実施した。

3. 分析方法

各尺度の各段階に好意度の高いと思われる方

秋田大学医療技術短期大学部

*看護学科

**総合基礎教育

***秋田県福祉保健部医務薬事課

Key Words : 看護イメージ

看護学生

縦断的方法

入学動機

の得点が小さくなるように1~7点を与え、尺度毎に平均値を算出し、以下の3点について分析した。

1) 一元配置分散分析およびt検定により、学年別の看護に対するイメージを比較した。

2) 学生全体の看護イメージについてバリマックス法により因子分析を行い、因子を抽出した。さらに、一元配置分散分析およびt検定により、学年別の因子得点を比較した。

3) 看護婦にあこがれて入学してきた学生を「動機づけ大」群、あこがれ以外の理由で入学してきた学生を「動機づけ小」群とし、t検定により、学年毎の入学動機別の看護に対するイメージを比較した。

Ⅲ. 結 果

1. 看護学生の看護に対するイメージの学年別の比較

全体の看護に対するイメージは、3学年共に「自由な」以外の全ての項目で3.9以下であり、

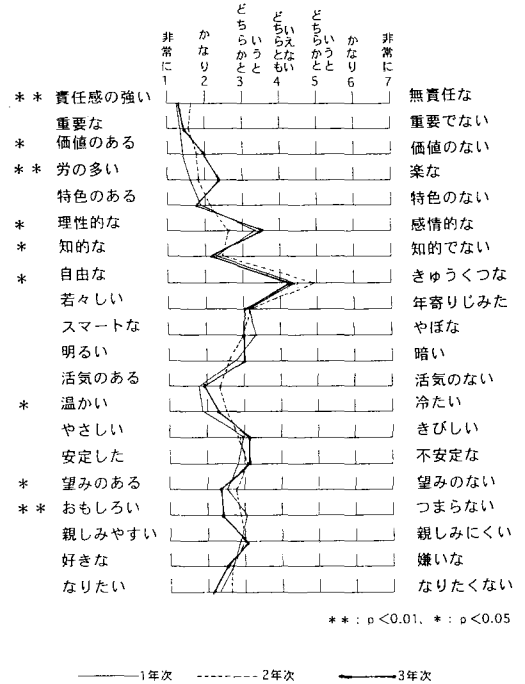


図1 学年別看護イメージのプロフィール

表1 学年別の看護に対するイメージ

尺 度	1 年 次	2 年 次	3 年 次	t 検 定
	平均値±標準偏差	平均値±標準偏差	平均値±標準偏差	
責任感の強い	1.26 ± 0.50	1.64 ± 0.81	1.29 ± 0.51	**1-3-2
重要な	1.36 ± 1.04	1.61 ± 0.69	1.46 ± 0.79	
価値のある	1.41 ± 0.57	1.79 ± 0.89	1.94 ± 1.53	*1-3
労働の多い	1.64 ± 0.76	1.86 ± 0.91	2.39 ± 0.88	**1-2-3
特色のある	1.87 ± 0.82	2.16 ± 1.01	1.83 ± 0.77	
理性的な	3.32 ± 1.16	2.69 ± 1.16	3.55 ± 1.39	*2-1,3
知的な	2.38 ± 0.90	2.47 ± 1.03	2.14 ± 0.94	*3-2
自由な	4.33 ± 0.94	4.92 ± 0.95	4.25 ± 0.89	*1-3-2
若々しい	3.15 ± 1.08	3.18 ± 0.85	3.08 ± 1.04	
スマートな	3.33 ± 1.10	3.00 ± 0.97	3.17 ± 1.06	
明るい	2.78 ± 1.16	2.62 ± 1.04	3.00 ± 1.03	
活気のある	1.87 ± 1.01	2.36 ± 1.04	1.96 ± 0.72	
温かい	1.89 ± 0.92	2.53 ± 1.18	2.23 ± 0.89	*1-2
やさしい	2.95 ± 1.59	2.73 ± 1.25	3.23 ± 1.34	
安定した	2.83 ± 1.40	3.10 ± 1.25	3.18 ± 1.06	
望みのある	2.50 ± 1.01	2.83 ± 1.10	2.31 ± 0.91	*3-2
面白い	3.03 ± 0.97	2.92 ± 1.05	2.44 ± 0.88	**3-1,2
親しみやすい	2.89 ± 1.21	3.04 ± 1.11	3.04 ± 1.20	
好きな	2.72 ± 1.09	2.71 ± 1.10	2.68 ± 1.10	
なりたいたい	2.30 ± 1.13	2.71 ± 1.31	2.25 ± 1.17	

** : p<0.05, *** : p<0.01

表2 看護に対するイメージの因子構造

因 子	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
13 責任感のある	0.7206	0.0600	-0.8521	-0.1638	0.0986
12 重要な	0.5777	0.0397	0.0867	-0.2024	0.1236
19 特色のある	0.5251	0.0731	-0.1425	-0.1189	0.0987
20 知的な	0.5075	0.2813	-0.2331	-0.2036	0.1344
15 望みのある	0.4944	0.2185	-0.3647	-0.1392	0.0462
6 若々しい	0.1065	0.7214	-0.1387	-0.0621	0.0817
11 明るい	0.1723	0.6080	0.0131	-0.4029	0.1230
8 スマートな	0.1501	0.4725	-0.1239	-0.1065	0.2081
14 なりたいたい	0.2871	0.2072	-0.8621	-0.1638	0.0986
5 好きな	0.2600	0.3075	-0.6067	-0.2048	0.1854
1 面白い	0.4530	0.0806	-0.4580	-0.1036	0.0910
4 労働の多い	0.1357	0.0710	0.3147	-0.0479	0.1664
19 やさしい	0.1469	0.0688	0.0365	-0.7458	0.1459
17 温かい	0.5013	0.2255	-0.0988	-0.5554	0.1127
7 親しみやすい	0.2971	0.0825	-0.1359	-0.3803	-0.0547
18 自由な	-0.0171	0.1447	-0.1921	-0.3204	-0.0407
10 理性的な	0.1581	0.2081	-0.0330	-0.0591	0.7719
9 活気のある	-0.1901	0.4594	-0.1239	-0.1880	0.5414
2 価値のある	0.1867	0.1887	-0.0348	-0.2020	0.3214
3 安定した	0.1051	0.1289	-0.0795	-0.1390	0.2864
寄 与 率 (%)	29.3	7.5	7.3	6.5	5.2
累 積 寄 与 率 (%)	29.3	36.8	44.1	50.6	55.8

好意的であった。学年別の比較では1年次は「責任感のある」($p < 0.01$)・「自由な」($p < 0.05$)で2年次より、「労が多い」($p < 0.01$)・「価値がある」($p < 0.05$)で3年次より好意度が有意に高かった。2年次では「労が多い」で3年次より($p < 0.01$)、「理性的」で1・3年次より($p < 0.05$)、好意度が有意に高かった。3年次は「面白い」で1・2年次より($p < 0.01$)、「責任感のある」($p < 0.01$)・「望みのある」・「自由な」($p < 0.05$)、の3項目で2年次より高い好意度を示していた(表1・図1)。

2. 看護学生の看護に対するイメージの因子構造と因子得点の比較

因子分析では、累積寄与率55.8%で5因子が抽出され、以下のように命名した。第1因子は「責任感のある」・「重要な」・「特色のある」などの5項目からなる『看護の特性因子』, 第2因子は「若々しい」・「明るい」・「スマートな」の3項目からなる『看護婦の外観因子』, 第3因子は「なりたいたい」・「好きな」・「面白い」などの4項目からなる『看護就労希望因子』, 第4因子は「やさしい」・「温かい」・「親しみやす

い」などの4項目からなる『看護婦の性格因子』, 第5因子は「理性的な」・「活気のある」・「価値のある」などの4項目からなる『看護の安定性因子』であった(表2)。

因子得点を学年別に比較すると、3因子で有意差がみられ、『看護の特性因子』で2年次が1・3年次より高く($p < 0.01$)、3年次は『看護就労希望因子』で1・2年次より低く($p < 0.01$)、『看護の安定性因子』で高かった($p < 0.01$)(表3)。

3. 入学動機別の看護に対するイメージの学年毎の比較

1年次では「動機づけ大」群62名(81.6%)で「動機づけ小」群は14名(18.4%)、2年次では「動機づけ大」群61名(81.3%)、「動機づけ小」群は14名(18.7%)、3年次では「動機づけ大」群60名(81.1%)、「動機づけ小」群は14名(18.9%)であった。入学動機別の看護イメージを学年毎に比較すると、1年次では「活気のある」・「好きな」・「面白い」・「スマートな」・「なりたいたい」の5項目で、2年次では「やさしい」・「活気のある」・「親しみやすい」・「価値のある」・「明るい」・「特色のある」・「温か

表3 因子得点の比較

因子	第1因子 看護の特性 因子	第2因子 看護婦の外観 因子	第3因子 看護就労希望 因子	第4因子 看護婦の性格 因子	第5因子 看護の安定性 因子
1年次	-0.240	0.140	0.257	-0.145	-0.124
2年次	0.551	-0.182	0.185	0.016	-0.351
3年次	-0.273	0.048	-0.420	0.135	0.449

** : $P < 0.01$

い・「自由な」の8項目で、3年次では「面白い」・「活気のある」・「若々しい」・「スマートな」・「なりたいたい」・「特色のある」・「温かい」・「知的な」の8項目で、「動機づけ大」群の方が、「動機づけ小」群よりも有意に好意度が高かった(表4)。

IV. 考 察

1. 看護に対するイメージの学年の特徴

看護学生の看護に対するイメージについてプロフィールをみると、「自由な一きゅうくつな」以外の19項目で3.9以下の低い値、すなわち、全体的に左寄りの好意的なイメージを呈している。1年次が最も好イメージ寄り、2年次が1・3年次よりも好意度が低く、3年次は中間に位置していた。平均評定値で差のあった項目から、1年次は看護を「労は多いが価値があり、責任感が必要である」とみており、2年次は「理性的できゅうくつである」とみており、3年次は「面白い」とみているのが特徴的である。看護イメージについてはこれまで“1年次より2年次の方がイメージが後退している”という報告があり、“理想的・観念的イメージが

より現実的・具体的な実像方向に修正された”と解釈されているが⁽⁴⁾⁽⁵⁾、本調査の結果においても同様の傾向があるものと考えられる。さらに、3年次では、「面白い」・「望みのある」等の項目で有意に平均評定値が低く、好意度が高くなっている。講義に加え臨床実習で看護を体験したことで、看護が具体的・現実的なものになり、「面白い」と感じるなど、2年次で後退したイメージが3年次で好イメージ寄りに変化したものと推測できる。

因子得点の比較で有意差が認められた3因子をみると、『看護就労希望因子』で1年次、『看護の特性因子』で2年次、『看護の安定性因子』で3年次が高得点であった。1年次は看護学の学習がわずかしかなされてない時期であるが、看護への就労の希望が強い。これは看護への十分な理解が伴わない段階のあこがれや、看護職に就くことに対して漠然とした希望を抱いていることを表していると思われる。2年次は基礎看護学実習と修得すべき教科の講義が修了した時期である。この時期は、看護についての基礎・成人・老人・小児・母性看護学の各専門科目の講義を受け、臨床実習を残すだけの時

表4 入学動機別の看護に対するイメージの比較

項 目	1 年 次		2 年 次		3 年 次	
	動機づけ大群 62名 (82%)	動機づけ小群 14名 (18%)	動機づけ大群 61名 (81%)	動機づけ小群 14名 (19%)	動機づけ大群 60名 (81%)	動機づけ小群 14名 (19%)
1.面白い	2.87±1.03*	3.57±0.76	2.82±1.04	3.42±1.00	2.34±0.84*	2.92±0.95
2.活気のある	1.71±0.78**	2.57±1.56	2.23±1.04*	3.00±0.95	1.84±0.67**	2.54±0.66
3.安定した	2.84±1.40	2.79±1.48	3.07±1.14	3.42±1.78	3.25±1.08	2.85±0.90
4.労の多い	1.68±0.81	1.50±0.52	1.92±0.90	1.83±1.03	2.39±0.90	2.39±0.77
5.好きな	2.57±1.06**	3.36±0.84	2.54±1.04	3.17±1.03	2.63±1.09	3.00±1.16
6.若々しい	3.10±1.16	3.43±0.65	3.15±0.89	3.25±0.75	2.94±1.05**	3.77±0.60
7.親しみやすい	2.77±1.12	3.43±1.45	2.89±1.10*	3.50±1.00	2.97±1.22	3.39±1.04
8.スマートな	3.19±1.07*	3.93±1.07	2.89±0.95	3.50±1.09	3.05±1.08*	3.77±0.73
9.価値のある	1.42±0.59	1.36±0.50	1.71±0.72*	2.25±1.42	1.81±1.49	2.54±1.66
10.理性的な	3.34±1.21	3.21±1.05	2.62±1.04	3.33±1.67	3.55±1.38	3.54±1.51
11.明るい	2.74±1.16	2.86±1.35	2.50±1.04*	3.25±0.87	2.94±1.02	3.31±1.03
12.重要な	1.40±1.14	1.14±0.36	1.56±0.67	1.92±1.00	1.42±0.75	1.62±0.96
13.責任感の強い	1.26±0.51	1.29±0.47	1.66±0.89	1.75±0.75	1.25±0.47	1.47±0.66
14.なりたいたい	2.15±1.05*	2.86±1.41	2.53±1.21	3.33±1.67	2.11±1.07*	2.92±1.44
15.望みのある	2.37±0.96	2.86±1.17	2.80±1.06	3.17±1.40	2.23±0.85	2.69±1.11
16.特色のある	1.81±0.81	2.14±0.86	2.05±0.96*	2.83±1.12	1.73±0.62*	2.31±1.18
17.温かい	1.82±0.86	2.21±1.12	2.41±1.12*	3.17±1.59	2.14±0.79*	2.69±1.18
18.自由な	4.40±0.84	4.00±1.30	4.36±0.93*	5.00±0.95	4.22±0.90	4.39±0.87
19.やさしい	2.82±1.60	3.43±1.51	2.54±1.22**	3.67±1.30	3.16±1.37	3.62±1.12
20.知的な	2.32±0.92	2.64±0.75	2.43±1.03	2.58±0.90	2.05±0.90*	2.62±1.04

** : P<0.01, * : P<0.05

期である。講義に基づく「看護とは、こうあるべき」という特性を、看護イメージとして強く描いているものと思われる。3年次は全ての臨床実習を終えた卒業前の時期にあり、看護に対してはあこがれや理想ではなく、職業としての価値や安定性を認識できるようになったことを示していると考えられる。

2) 入学動機別のイメージについて

真鍋ら⁶⁾が実施した同様の調査では、「看護婦を目指さずに入学してきた学生のグループの方が働きがい・外見的特性・就労状況で高得点であり、看護婦にあまり期待を抱かずに入学してきた者の方がかえってイメージが肯定的になるのではないかと報告されている。入学の動機が積極的な看護職志向でない学生でも、看護の専門教育を受けることにより、イメージがポジティブな方向に変容することや、入学時、積極的な看護職志向であっても3年間で看護のイメージがネガティブな方向へ変容することなどが考えられ、入学の動機によるイメージの差は、学年の進行と共に小さくなるものと予測された。しかし、本調査では入学から卒業まで一貫して「動機づけ大」群の方が有意に好意的なイメージであった。さらに、2・3年次では1年次より、差のある項目が増えており、看護にあこがれて入学した学生は、あこがれ以外の理由で入学した学生よりも、看護学の学習を深めるにつれて看護に対する好意度が高くなっているといえる。

あこがれ以外の理由で入学した「動機づけ小」群の学生の看護に対するイメージも、「自由な」以外のすべての項目で3.9以下の好意的イメージであった。また、1年次で最も平均評定値の低い項目が多く、2年次で最も平均評定値の高い項目が多かったことは、全体の学生でみた場合と同様の傾向を示している。看護にあこがれて入学した学生ほどではないにせよ、あこがれ以外の理由で入学した学生でも看護に対しては好意的なイメージであり、看護の学習の進行に伴い、少しずつ変容していると思われる。動機づけの小さい学生に対して、「動機づけ大」群と較べて看護に対するイメージの差がよ

り小さくなるような教育の方法を検討する必要性もあることが示唆されたと考える。教育の方法等について検討すると共に、入学動機別の学生の意識について、因子得点の比較なども含めて、さらに詳細に比較検討することが今後の課題である。

V. 結 論

看護学生の看護に対するイメージの変容の仕方について、縦断的方法により3年間継続して調査した結果、以下の結論を得た。

1. イメージプロフィールは、全体的に好イメージ寄りであったが、1年次が最も好イメージ寄り、2年次が最も好意度が低く、3年次は中間に位置していた。

2. 因子分析で5因子が抽出され、それらは『看護の特性因子』、『看護婦の外観因子』、『看護就労希望因子』、『看護婦の性格因子』、『看護の安定性因子』であった。

3. 因子得点の平均値は、『看護就労希望因子』で1年次、『看護の特性因子』で2年次、『看護の安定性因子』で3年次が高得点であった。

4. 看護にあこがれて入学した学生の方が、あこがれ以外の理由で入学した学生よりも、入学時から卒業時まで一貫して、好イメージを示した。

VI. おわりに

看護学生の看護に対するイメージは、看護の専門教育の進行に伴って変容することや、入学動機によってイメージに差があることが明らかになった。入学動機別にみたイメージと進路志望の関係については次報で報告する。

VII. 引用文献

- 1) 白佐俊憲, 水谷一郎, 木村泰子そのほか: 小学教師のイメージ研究. 北海道女子短期大学研究紀要第15号: 31-43, 1981.
- 2) 木村泰子, 白佐俊憲, 石塚百合子そのほか: 養護教諭のイメージ研究. 北海道女子短期大学研究紀要第15号: 17-30, 1981.

- 3) 石井範子, 志賀令明, 戸井田ひとみそのほか: 看護学生の看護に対するイメージの変容について—基礎看護学見学実習前・後の比較. 秋田大学医療技術短期大学部紀要第2号: 91-97, 1994.
- 4) 謝花美佐子, 平良広子, 安里栄子そのほか: 看護学生の看護婦イメージの学年別による検討—動機と意思との関連性—. 看護教育25(2): 89-94, 1984.
- 5) 波多野梗子, 小野寺杜紀, 森田チエコ: 看護学生の学習および看護職に対する態度の発達的变化. 看護教育23(8): 513-520, 1982.
- 6) 真鍋淳子, 野尻雅美, 中野正孝そのほか: 看護学生の看護婦イメージの研究—大学生と短大生の比較—. 看護教育35(6): 427-433, 1994.